

## 大分南警察署協議会

### 第 1 回会議の開催状況

#### 第 1 開催月日

令和 4 年 7 月 1 2 日（火）

#### 第 2 出席者

協議会 委員 7 名  
 警察署 署長、副署長、地域交通官、総務課長、会計課長、生活安全課長、  
 地域課長、植田交番所長、拝命後 5 年未満の警察職員 5 名 1 3 名

#### 第 3 議事の概要

- 1 管内概況の説明  
警察署から管内概況について説明がなされた。
  
- 2 諮問事項の説明  
警察署から諮問事項である「若手警察職員の育成方策」について説明がなされた。
  
- 3 若手警察職員の発表  
 拝命後 5 年未満の若手警察職員 5 名が、
  - ・自己紹介（氏名、年齢、係名、拝命年月、出身地、志望理由など）
  - ・警察学校での授業のエピソード
  - ・座学（警察学校）で学んだことと実務（警察署）でのギャップ
  - ・署に出てから思ったこと
  - ・自己評価
 などを発表した。
  
- 4 指導者の発表  
指導者を代表して、植田交番所長が、若手警察職員の現況について説明した。
  
- 5 諮問事項に関する意見
  - (1) 委員から「地域の人と交流するといっても、どうやって交流するか、なかなか難しいが、ストレスを溜めない様にして欲しい」旨の意見がなされた。
  - (2) 警察署から「コミュニケーションについて、警察の仕事は人対人であり、不審者に対しても声かけから始まり、不審点がなければ丁寧な対応で終わることが求められる。民間の皆さん方にコミュニケーション能力を向上するためにこういうことをしたらいいというアイデアを頂ければと思う」旨の意見がなされた。
  - (3) 委員から「私の職場は、若い職員に対し、コミュニケーション能力の向上を目的として雑談をしようということで、雑談のロールプレイングをさせている。コミュニケーションには言葉のキャッチボールが必要で、マニュアルだけの仕事をしていると応用がきかない。雑談のロールプレイングをすることで、自分が考えていないことは臨機応変に対応しなければならないことから、コミュニケーション能力の育成に効果があるのではないかと行っている」旨の意見がなされた。

- (4) 委員から「地域の自治委員に出向いて話をすれば、地域の課題も見つかり、コミュニケーション能力向上の解決策も見つかるのではないか」旨の意見がなされた。
- (5) 委員から「一般社会はどういうことを常識として要望しているのか、相手は法的なものの範囲の中でどういうことを要望しているのか、警察組織とどういうズレがあるのかを幹部がよく理解できていないと教育ができないのではないか」旨の意見がなされたことを受け、警察署から「今後、幹部の指導方法についても討議いただければと思う」旨の発言がなされた。
- (6) 委員から「私は現職になって25年になるが未だに分からないことが沢山ある。資格をもって仕事をしていると、その分野のことは100%全部知っていると一般の方は考える。警察職員も同じで、何もかも知っているという方は見ている。ところが、知らないことの方が逆に多い。だからこそ、自分で本を読み条文を読んで調べる。それでもわからない時は、同僚や先輩に聞く。知らないことを知ったふりをするのは一切しないという姿勢が大事だと思う」旨の意見がなされた。